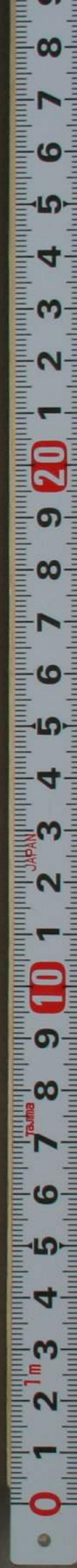


野作雜記譯說

三

洋学文庫
文庫8
C 273
2





東北韃靼諸國圖誌野作雜記譯說卷之三



和蘭譯司 長崎 馬場 貞由 奉

命

謹譯

千六百四十四年

日本正保九年甲申

野作及韃靼訪知紀事

ヲ再ニ跋太西^バ肝^ア西^アヨリ予ニ贈リ示スノ書アリ

コレヲ左ニ載ス

マルテニデフリイスナル者ガステ井リキエム及

プレスケット號スル二艘ノ海船ノ總主宰トシ
テ未審北地訪知ノ為ノニ既ニ其地方ニ航海
シ終ニ前年按ニ寛永ニ十年ニ當ルノ十一月按ニ我霜降
有ル臺灣ニ着航ス其船中ニアリシ夥長コル
子リス、クーンナル者ラシテ此処ヨリバタ跋太亞
斯亞ニ到ラシメ其野作及北亞墨利加洲ノ中
既ニ巡見シタル所ヲ記シテ予ニ報ス今爰ニ
示シ贈ルモノハ其要ヲ撮テ其餘ハ省略スル

モノトナ

第四月按ニ我春久ヨリ初旬海船二艘テ的尔那

太按ニ印度海路諸島一名ヨリテ登シ而メ已ニ北

方ニ進マントスルニ当テ東北風俄ニ起リ止

ムヲ得ズ南海ニ至ル但其南海中ニテ別ニ新

嶋ヲ見ス其五月按ニ我穀雨ヨリ二十日ノ夜

大凡日本ノ東南ナルベキ海ニ至ルコノ処ニ

於テ亦大風起テ乃船ヲランケリユクギグ嶋按ニ

不幸篤ノ義其名義未詳因ヲ考フルニ
伊豆七島ノ中神集島ヲ稱セルナリトイハ
ルニ吹寄セラレ將ニ破船セントスルトコロ
漸ク破及數條ノ大綱ヲ擲ケ捨テ以テコノ危
難ヲ免シタリ此処ヨリ船至「フリース」ナル者
ハ其一艘「カス」ナリキユム船ニ駕テ独リ日本ノ
東海ニ沿テ北極出地四十度ノ処ニ至ル自註
此海路ニ於テ漁船多ク昔カ船ニ未レリ益シ此邊ハ日本東北ノ
絶界ヨリ按ニ南部ノ此処ヨリ其尋訪ノ標的

トスルノ海上ニ進ミ向テ遂ニ第六月按ニ我
リ夏至ノ四日北海中ニ至ルヨリ三日ニ
間ニ當ルシテ野作ノ積雪アリシ地北極出地四十二度
ノ処ニ到着ス按ニ「シマ」ニ此南東ノ海岸ニ沿
テ凡六十里日本ノ凡百二十里ヲ歴ル其間処々ニ碇泊
セリ都テ此邊一帯ニ露深クシテ濛々タリ其
土地ハ樹木生セス但住民ハ頗ル多シ船主「フ
リース」ナル者ハ大ニ其土人ト懇心ニ遇セリ此

此最モ不毛ノ地ト見ヘテ土産ト云ベキモノ
ハ唯鯨油獸皮ノミアリ土人此等ノ物ヲ以テ
日本ノ諸品ト交易ヲナス其国中ニ銀ヲ産ス
ル処アリ土人ハコレヲ以テ小銀ヲ造リ耳及
首^{ユリ}領ニ懸ケ以テ飾リトス又帶スルトコロノ
釵ヲ見ルニコレ亦銀ヲ以テ鑄メ飾トナセリ
此等ノ形態ハ我輩ノ未タ曾テ見聞セサルモ
ノナリ

按ニコレ土人ノ造レル所トノコハ推察ノ
誤ナルベシ

野作ノ北ナル絶界ハ北極出地四十四度三十
分ノ処ニ盡リ

按ニ蝦夷ノ東岬「クナヅリ」ニ向フ所ヲ云ナ
ラン南方ヨリ船ヲ進メシヨリ北ト云ヒシ
ナルベシ其真ノ北界ハ即「リラヤ」ナリ戊辰
ノ春貞由^父貞^歴 公事ヲ以テ「リラヤ」ノ地

ニ至ル嘗テ曆局ノ傳ヲ得テ其北極高度ヲ
測量スルニ四十五度三十分ヲ得シトイヘ
リ本文四十四度三十分トイフハ必ス「クナ
シ」ニ向フ処ヲ云ナルベシ

是ヨリ「スターラン」エイラント「クナ
シ」ニ到ル此
嶋ノ長サ凡三十里日本凡六十里許歟地各処樹木ナ
クシテ唯自カラ光澤ヲ發スル山アリ是ヨリ
北亞墨利加ノ方向北極出地四十五度四十六

度及四十七度ノ地按ニ「エトロフ」ナル
「グ」邊ヲ云ナランニ到ル
其地頗ル大ナリトイヘ氏住民ナシ亦処々ニ
金銀山ノ如クニ光澤ヲ發スル山々アリ此
地ニ於テ鉄鑛ヲ拾ヒ得タリ又爰ヨリ「スタア
テ」ニエノ「ランド」ノ北海ヲ通行シテ夏月ノ末
強テ船ヲ進メ渺茫タル奔駭激浪ノ大北海中
北極出地四十八度ノ処ニ到ル按ニ「唐太」ノ東
岸「シ」ト「コ」邊
ヲ云ナ
ラン然ルニ西北ノ風強クシテ止ムコトヲ得

ス南行シ虞ラスレテ野作地ノ中未タ巡見シ
意トセサル北極出地四十九度餘ノ地ニ到_ニ按
ソラヤレヲソレヨリレテ再々四度許リ北方ニ
進ミ地方ヲ遠望セリ即爰ニ船ヲ寄セ未テ見
レハ土人アリ耳及首領ニ銀ノ小環ヲ懸ケタ
リ_{按ニ唐太ノ東}コノ海岸ニハ最モ尖圓ナル
高山マリ土人曰峽山ノ外ニ又一箇ノ山アリ
共ニ夥シク銀ヲ産スト然レモ彼等多クコレ

ヲ取り扱フヲ見ズ唯其コレヲ以テ銀ヲ造リ
腕ト耳トニ懸ケ飾リトシタルモノ、ミナリ
予其耳飾ハ二三箇ヲ交易シ得タルノミニシ
テ其他銀品ノ多キヲ見ス

第七月_{按ニ夏至ヨリ大暑ノ間ニ當ル}下旬北極出地四十九
度ナル_ハバレイン_ニシ_レ岬_{按ニコレ唐太ノ東ニ}
ト_コ岬ヲ斯クニ到ル_ハ峽邊逆風烈シク且霧深
ク空濛トシテ尚強テ北方ニ進ムヲ能ワスコ

コニ於テ韃靼ニ渡リ訪知スルノ事ヲ止メ
テ初メ既ニ入リタル海灣按ニ唐太ノ東方ニ
ナラン即系五卷中ニ出ヌ因ニ「向フタル内海ヲ云」
トマアコナス港ト名ル処見ナリヲ出テ再
ヒ大洋ニ出ツ全十六日野作ノ東南ナル内海
グーデ。ホーブル按ニ因ヲ考フレバアッ トイヘル
ニ到ル処ニ於テ薪水ヲ求メ得テ遂ニ八月
月按ニ大暑ヨリ処暑 二日此地ヲ出帆シテ日
本ノ東海ニ進ミ而シテ北極出地三十七度三

十分ノ処ニ到ル按ニ常陸ノ 東海ニ当ル 処邊西風有リ雨
天ニアラヤレ氏奔浪烈リ凡四百五十里餘本日
ノ凡九 既ニ東行シタリ 自註ニ曰コレ八月
百里餘 既ニ東行シタリ 十日ヨリ九月一日迄
ノ間 其間更ニ陸地ヲ見ズ然レ氏其近海ニハ
鳥類都テ日本野作スタアラニエイラントナリ
リコムハクニースラントエトノ方ヨリ南海
ニ向テ浮ミ流ル、ヲ見タリ此処ヨリ船ヲ間
切ナカラニシテ再ヒ日本ノ東海ニ到ル其邊

亦地方ヲ見ス

野作ノ土人都テ天性良善ニシテ禮義篤シヨ
ノ地ニ交易アルハ未タ嘗テ我國ニ聞ヘス
然ルニ日本ノ中南部ノ人絹布綿服米穀及其
他ノ品物ヲ松前ニ運送シ是レヨリ復小舟ニ
積ミ載ヒ野作ノ海岸ヲ廻テ皮革鯨油ヲ以テ
交易ヲナスナリト既ニソノ商船ヲクウテ、ホ
ラブル港 按ニ彼「ラケレ」ノ港ヲカリ私稱ニ於テ
ムルナリ即喜望峯ノ義ナリ

見タリコレニ由テ始テ此地ニ交易アルヲ
知リ且其國俗風土ヲ察知スルニ至シリ其時
コノ所ニ於テ我船中ノ者斧鑿「カン」按ニ
是物諸書ニ就テ考察スルニ未タ詳ナラス
恐ラタハ斧鑿ノ美ニテ鉄器ノ名ナルベシ
珊瑚珠及雜物等總計六「キユル」按ニ「キユル」
一「キユル」^ハ日本通用銀ニ比スレハ四錢
ニ当ル乃六「キユル」^ハ二十四錢ナリ
價ニハ當ラサルモノヲ以テ彼地ノ金銀三片
金銀鑛紹及「マートル」按ニ紹ノニ似タル草四
一種ナリ

枚ト交易し得タリ既ニ日本人イヘラク野作
ヨリ金銀ヲ得ルヲ甚多カラスト然レモ若シ
其地ニ金銀ノ産更ニナクンバ豈往テ交易ヲ
ナシ利ヲ求メンヲ謀ルモノアラシヤ其地
實ニ金銀ヲ出スヲ多シ乃野作人ノ金銀ヲ以
テ衣服ヲ飾ルハ金ク他國ノ者ニ其富厚ナル
ヲ知ラシメンカ爲ナルベシ

梅ニ於既ニ日本人日ク以下ノ條ニ傳聞推

察ノ失誤ナルベシ

「ゴムバグニースラン」ト^{エト}ノ山々ニハ好キ
産物モ頗ルアルカ如クニ見ユレモ未タ肯テ
コレヲ探索スルモノナシ思フニ後世漸リコ
レヲ發見セン^ト必セリ

梅ニ命ヲ受テ享和年間官更果ナル人歟焉
ヲ開創シ今ニ在テハ獵業ノ利少ナカラズ
ト聞ケリ彼カ先見百有餘年ノ後ニシテ果

レテ当レリ

右各條ノ説皆船主「フリイス」ナル者未審ノ北
地ヲ訪知センカ為メニ航海シタル時ノ紀事
ナリ多クハコレヲ取ルベクノ信用スルニ足
ルモノト云フベシ

○野作ノ中ニテ「エゾ」ト云テ「エロント」呼フトコロ
アリ其土人ノ長ケハ都テ五尺餘其體貌横ニ扁
潤ナリ各粗髪ヲ垂レ髪黒リ其頂ヲ円形ニ剃リ

○其衣服日本製ニ似タルヲ着ス亦熊皮ヲ着スル
アリ恒ニ日本カヲ帶シテ失ヲ携フ最モ酒煙草
ヲ愛ス梅ニ坎「エロント」ノ説
未タ考フベカラズ
○又「ロツ」梅ニ海獺「マアトル」
ヲ云カ一種ナリ前ニ註ス獺及其他
ノ獸皮ヲ以テ製シタル服アリ其土俗ノ性皆歡
喜幸福ノ事ヲ愛ス

○海邊ニ於テ「ヘイルボット」レカルレン按ニ共ニ比
目魚ノ類
松魚ノ類夥ク獵ス因チ「アップルボーム」按ニ橋
梨子ノ類

ヲ云フ然レモ夫^ルゲ^ル子^ノボ^ル種^ニ前^ニ註^スア
地^ニ絶^テ所^ニ不^レ産^セ也^{ナリ}
リ其^ノフ^ルボ^ルハ皆生^シテ直^ニ突^クヲ結^ブエ
人^ノ鯨^ノ油^ヲ取^リ又^ニ魚^ノ美^ヲ獵^テ岩^ノ石^ノ上^ニ乾^シ以^テ
食^用トナ^ス土^ノ人^ノ性^質皆^ニ溫^良ナ^リ小^ノ舟^ニ乘^テ
海^濱ヲ環^ル此^ノ地^ニ交^易ヲナ^スハ既^ニ前^ニ云^フ
カ如^シ又^ニ日^本人^ノ話^ニ野^作ハ海^國ナ^リトイ^ハ
リ

○野作ノ金山未^タ嘗^テコ^レヲ實^驗セ^ストイ^ハ氏

○銀^鑛ニ似^{タル}モノ其^ノ地^ニ多^シコ^レ果^シテ金^銀
ヲ出^スモノア^ラン

○マ^ケユ^ノイ^ハ前^ハ野^作ノ南^方ナル海^岸ニ在^ル此^ニ
シ^テ爰^ニハ日^本ヨ^リ守^護ヲ置^テ國^政ヲ司^ラシ
ム自^註ニ曰^ク守^護モ亦^日此^ノ處^ヨリ米^穀絹^布及^ニ
其^他ノ諸^品ヲ舟^ニ積^テ野^作ノ海^岸ヲ環^リ鯨^ノ油
皮^革ト交^易ヲナ^ス

○往^古我^國ノ東^印度^通商^ノ海^船ヲ以^テ日^本ノ東

海ナル未審ノ諸島ヲ訪知センカ為ノ嘗テ北極
出地三十七度三十分ナル海上ニ到ルヲアリニ按
常陸近海大凡坎然レ其時更ニ野作地ヲハ遠
度救ニ当レリ望スルヲモナク唯鳥類草木等其北方ヨリ流シ
来ルヲ見タルノミナリトナリコレ当ニ北亞墨
利加洲或ハスタアテンエイラントニ又或ハ
日本地方ヨリ流シ来リシモノト思ワル、ナリ
○予カ一友人元ト本国ノ商客某ナルモノアリ今

ハ北亞墨利加洲ノ中ニノウ、子ーテルラントニ
按ニゼラカラヒイノ書ニ曰「ニーウ、子ーテル
ラントトハ今時ニトウ、ヨルクト云地ノ舊稱
ニシテ亞墨利加洲ニ属ス一千六百十七年ヨ
リ日本元和日本寛文一千六百十七年日本寛文迄ハ
和蘭人コノ処ニ在テ其地ヲ開キ人民ヲ増殖
シ家宅ヲ建テ耕作ヲ開業シ交易ノ道ヲ創業
セリ然ルニアル時ニ其隣境ニ在リシ薩赤府

亞利加洲各國略圖
英王三十七年

亞人ト確執争闘セルヲアリ其虚ニ乗シテ諸
厄利亞人未テ終ニ其地ヲ侵掠シテ和蘭人ヲ
悉ク逐出セリ其時地名ヲ改メ始テ、ニールウ、ヨ
ルクト稱スルナリト 貞由 亦嘗テ聞ク大凡四
十年の末北亞墨利加洲ノ中十三國一致ヲナ
シ再ニ具ニールウ、ヨルクノ諸厄利亞人ヲ拂
其一致ノ國ヨリ治領スルトナリ
居住セリ其人ノ語ニ曰彼其処ニ置ケル 諸厄利

亞國ノ官司ヨリ「イラケイス」ニ曰「興地統載ノ書
北亞墨利加洲ノ中「カムブレイン」湖ノ傍北極出
地四十度ノ処ニ在テ土人皆強勇ナリ今時ハ
諸厄利亞人ノ土人ヲ服従セシメテ諸厄利亞ノ部
ニ屬ス
下トナスベキノ令ヲ蒙リ乃其事ヲ以テ答フス
然ルニ其塗中ニ於テ一个ノ人ニ逢フ即其人語
ヲ曰コ、ノ西隣ノ國人ヨリ囚ワレ遂ニ其北西
西北ノナル遠國ニ連レ行カレタリ其行程既ニ
数月ノ間ナリニ其旅中ニ於テ形々小ニシテ

皮衣ヲ着テ穴居スル人物ヲ見タリ後其囚コレ
ヲ許サレテ再ニ歸ルニ亦穴居シタル人物ノ
在ル処ヲ通行スコ、ニ於テ珊瑚珠ニ似タル銅
塊一箇ノ赤色ノ美石自註ニ曰コレ其地ニ於テ
煙管ヲ製造スルモノナリ
ト鵲鵲ニ似タル鳥羽及其他ノモノヲ得タリト
イヘリ然話ヲ以テ考フルニ其囚コレテ救月北
西西成ノノ方ニ到ルト云ヒタル其到リシ処ハ
必野作及「コムバリニースラン」トエトヨリ相遠
コト

カラサルノ国ナラント思ワル、ナリト云フ

按ニコレ臆説決シテ野作地ニハアラサルコト
必セリ

○日本人ノ話ニ聞ク野作ノ箇長ノ祖ハ日本国王
ノ血属ナリ蓋シ古ノ罪アルニ因テ茲ニ追放セ
ラル、者アリト

按ニコレ源延尉義経ノ俗説等ヲ聞シ誤リナ
ルニヤ

○野作ノ諸篇中ハ山林アリ其銀鑛ハ都テ海岸ニ
近キ処ニニアリト思フベシ其海岸ニ在ル土民
皆日本人コレヲ服從セシメタリ

○日本ノ東北ニメ野作ヨリハ南ニ当リテ日本里
法ヲ以テ凡三百里ヲ相隔テ一箇ノ篇ヲ見出ス
ト既ニ日本ノ船師ノ話ニ聞ク按ニ日本ノ南海
ニ在ル小笠原島
等ノ「フニモアル」予西洋製土地図ニハ
是ヲ「シント」ト「マス」寫ト私称セリ又野作ト
韓韃トハ相對シ其間海水通流シテ其形殆ント

小灣ヲ見ルニ等シ而メ其一道ノ海ヲ以テ兩洲
ヲ相隔ツルヲハ我日本ニ顯然タルヲ既ニ久シ
トイヘリ

按ニ此説取ルベシ然レモコレ當時リッポ本邦ノ
人未タ知ラサル所ナルベキカ

「カステイリキユム」船ト號スル海船ヨリ最初按ニ最
初ト云
ハ「第一」回ノ初ニ送り示スノ書アリ左ノ如シ
信ナルヘシ

予野作ニ至テ最初ニ見タル其土人ハ舟ニ乗

野作ノ諸島中ハ山林アリ其銀鑛ハ都テ海岸ニ
近キ処ニニアリト思フベシ其海岸ニ在ル土民
皆日本人コレヲ服從セシメタリ

日本ノ東北ニメ野作ヨリハ南ニ当リテ日本里
法ヲ以テ凡三百里ヲ相隔テ一箇ノ島ヲ見出ス
ト既ニ日本ノ船師ノ話ニ聞ク按ニ日本ノ南海
ニ在ル小笠原島
等ノコトニモアル予西洋製土地図ニハ
是ヲシントトマス寫ト私称セリ又野作ト
鞆鞆トハ相對シ其間海水通流シテ其形殆ント

小灣ヲ見ルニ等シ而メ其一道ノ海ヲ以テ兩洲
ヲ相隔ツルヲハ我日本ニ顯然タルト既ニ久シ
トイヘリ

按ニ此説取ルベシ然レモコレ當時リッポ本邦ノ
人未タ知ラサル所ナルベキカ

カステイリキム船ト號スル海船ヨリ最初按ニ最
初ト云
ハ多一回ノ初ニ送り示スノ書アリ左ノ如シ
信ナルヘシ
予野作ニ至テ最初ニ見タル其土人ハ舟ニ乘

鞆地ニ對海小島

テ一童子ヲ伴ナヘリ其姿貌野鄙ニシテ色黒
ク骨節大ナリ黒色ノ粗髭ヲ垂レ頭大ニシテ
其髪日本人ノ如ク剃リ成シ惣身色黒ク且毛
アリ衣服ハ獸皮ヲ以テ日本服ノ形ヲニ製シ
其携フトコロノ弓矢劔刀亦日本製ノモノニ
似タリ其柄ヲ見シハ銀片ヲ以テ飾リ又日本
ノ國字ヲ彫刻シタルアリ其舟ヲ予カ船ニ漕
キ寄セ其二人船中ニ未テ其狀甚懇切ナル如

キアリ予カ水夫カレニ米トアラキ梅ニ燒ヲ
耐ノ名
与フ彼レ等コノ「アラキ」ヲ見テコレハ日本人
ノ「サツキ」酒ト云モノナリトイヘリ又煙草
ヲ与フ是レ彼レカ最モ好ムモノナリ彼レモ
亦予カ輩ニ謝センカ爲ノトテカラサケ乾松魚及「エラ
ンツ」鹿ノ羹詳ニ
前卷ニ註スノ皮一板ヲ与ヘタリ其一人
ハ「タムハブ・ゴウト」梅ニコレ所謂「ッ
ンパカ」金ナリノ環ヲ耳
ニ懸ケタリ予彼ニ向テ此ノ如キ耳環ノ類劔

ノ柄及小刀ノ類多ク國中ニ在リヤ否ヲ問
フニ有リト答フ又此國ハ所謂「エソ」ナルヤト
問フニ彼レコレニ答ヘヌレテ唯「ボカプ」レヨ
リ来ルト云フコトノシカタラシテ見セタリ
按ニ「ボカプ」レハ「トカチ」ノ訛音ナリ地名ノ
答ヘナキハ亘ナリ蝦夷人ハ彼土ヲ「エゾ」ト
ハ稱セス

北極出地四十七度十二分東西經度一百六十

二度十五分ナル「フレイエ」ン、ベル「グ」港按ニ唐
太ノ東
西「シ」ントコレノ南ナル内海ヲ新ニ名テ「アル」フ
カ「フレ」イエ「ン」ハ喜ナリ「ベル」グ「ハ」山ナリ其義
未ニ確泊ス其地ノ土民ヲ見ルニ顔色既ニ前
ニ見タル者ヨリハ稍白シ然レモ尙粗髪荒髭狀
アリテ弓矢ヲ把リ衣服言語共ニ前ニ見タル
モノニ相同シ但獸皮鯨油等ノ互市アルヲ見
ス予彼レニ「タル」タリマ韃「ボ」ウロサン「ゲ」イ「マ」
ン「ジョ」レ一名「ブレ」マ「及」カム「ハ」リ撰者自註ニ曰「曾」
テ千二百年ヨリ

ハ此等ノ諸地皆韃靼ノ中北極出地五十五六
度ノ処ニアリト思ヒキ然レ氏皆誤ルモノナ
リ等ノ位置ヲ問フ然レ氏コレヲ答ヘズレテ
按ニ「ボウロサンケイ」未詳但シ韃靼ノ中北
極出地二十九度三十分ナル地ニ「ボウトラ
有リ或ハコレ字但彼到ント欲スル所ニハ
アラサルベシ其船ヲ送ラントスル所ハ「ア
ムル」海口ナルベキカ「ボリサンゲ」ハ何レヲ
誤リキケルニヤ又「ヤンゲ」ハ「ヤンチエウ」ナル

ヘシ然レ夫那南京ノ中ニ在ル一大甬ナリ
又「カムバリ」ハ「カムバル」ナルベシ是韃靼人
呼ブ所ノ北^{ヘキン}京ナリ

唯我國ノ「アミロ」^{按ニ唐太ノ「トマリ」}ト云ヒ又
自カラ居住スルノ村落ヲ「トマレイ」^{按ニ唐太}
^{カレシム}ナラント云トノミ答フ同日ニ又其別人船中
ニ枯魚ヲ持来テ頻リニ鐵及許ト交易セニ
ヲ請フ其彼レカ衣服ヲ見ルニ前ニ来ル者ヨ

リハ美ヲ飾リ耳ニ銀環ヲ懸ケ銅絲ヲ以テ連
テタル珊瑚珠疑ノ輪ヲ首ニ懸ケタリ

此処ハ恒ニ霧霧深シ土人亦救人ヲカ船中ニ
救頭ノ魚ヲ持来テ鐵ト交易セシテ請フ因
テコレニ僅ノ鐵ヲ与ヘシニ其代トシテ夥ク
鮮魚ヲ携ヘ贈レリ其救頭船中ノ總衆食ニ盡
スベカラサル許リナリ此地ノ風土及土人ノ
性質ヲ觀ンカ考ノニ少シク商貨物ヲ賣レテ

上陸ス已ニ上陸シテ其地ノ一家ヲ見タリ其
造作悉ク檜柱ヲ以テ建テ屋上大樹皮ヲ以テ
覆ヒ門戸ハ板ヲ用テ造リ具家ノ高サ凡六尺
餘坐席ハ遍リ蒲筵ヲ布キ按ニ蒲ノコ
前ニ註ス其中央
ニ爐坑ヲ設ケ恒ニ火ヲ燃ス其煙薰ノ処ニハ
サケ松魚或他人魚美ヲ懸ケ乾シタリ又其室中ニ
日本製ニ是相似タル二箇ノ櫃アルヲ見タリ
コノ土人モ皆耳ニ銀環ヲ懸ケタリ其環ノ重

カ九十銭ニ至ル又其家ノ入口ニ棧アリコレ
 其庭ヲ織ル其ナリ其家ノ周リハ皆檜ノ柵ヲ
 以テ圍ミタリ彼レ予ニ支那製ノ金箱羅紗キンイリヲシヤヲ
 見セタリ柵ニ蚊ユリミシキ緞ナラシカ而ノ日本奎リノ杯碗及盆
 盃等ノ漆器ヲ出シ一人毎ニ其盃上ニ枯魚ヲ
 盛テ与ヘリ其家婦珊瑚珠三連ヲ以テ予カヌイ續
 衣ト交易セリ其家ノ后ニアタリテ河水ノ通
 流セルアリ又海濱ニ於テ其土地ノ大水中ノ

魚ヲ獵ルヲ見タリ其習鍊ノ術甚妙ヲ得テ寶
ニ奇トスベシ又童子ヲ見ルニ色白ク背上ニ
銀ノ造リ物ヲ負フ其重サ六七十錢アリトイ
フ乃其母ナルモノ衣服ヲ縫フヲ見ルニ即支
那製ノ針ヲ以テ日本人ノ服ヲ縫フカ如ニス
己ニ其処ヲ去ルニ及テ土人等妻子共ニ予輩
ヲ海濱ニ送レリ再ニ船中ニ歸レハ貧賤ノ者
ト見ヘテ尚亦魚ヲ持來テ交易ヲ請フ由テ彼

等ニ酒ヲ飲マシムルニ欣然トシテ喜ヒ歸レ
リ

其土人新ニ図ヲ作り示レテ曰野作ハ一箇島
ニシテ其北ニ韃靼有リ其南ニ日本アリ而シ
南西西申ノ西ニ朝鮮アリト又此処ニ於テ日
本船ノ船主予カ船ニ来ルアリ彼亦曰野作ハ
一箇島ニシテ既ニ余モ示コノ野作ト朝鮮ト
ノ間ナル一條海ヲ通航シタリトコノ日本人

ノ教示ニ因テ大ニ利ヲ得且予カ大惑ヲ解キ
タリ坎日本船主予ニ約シテ曰明日余カ船モ
亦爰ニ来リテ貴船ノ邊ニ碇泊スベシト然ル
ニ遂ニ其約ヲ全スルヲナクシテ密ニコノ地
ヲ出帆セリト后ニ聞ケリ

○一十六百二十二年日本元知ヒ一ロ子イミユス、ア
ンゲリスナル者ノ送レル野作紀事アリ左ニ出
ス

梅ニ歟書ハ^{ポルトガル}波爾杜瓦人 本邦ニ渡テ死
ク天主教ヲ演フルノ頃^{マカウ}阿瑪港ニ在ル同
徒ニ送ル書ト見ユ即コノ^ロヒ^ロ子イミユス
デアレケリスハ其頃渡来シタル者ナルベ
シ其書漸ク改羅巴洲ノ諸国ニ流布シ遂ニ
歟撰者亦コレヲ得タルモノナランカ
天ノ命ニ因テ吾尊教ノ餘澤遺訓ヲ遠ク日本
ノ邊境野作ノ地ニ至ルマデモ弘ク布キ施シ

カタク嘗テ同業ノ數輩ト日本ニ渡ル予即其
長トシテ又共ニ彼地ニ到リ其尋聞セル^{マカウ}紀事
ヲ^ロヒ^ロ子イミユス、^ロヒ^ロテサリキウス^{梅ニ瑪港}
ル同徒ノ者ニ送ル即コレ其地方ノ紀聞ヲ送
ルノ最初ニシテ今ヨリハ既ニ六年前ナリ又
千六百二十年^{日本元和}六年^{庚申}ニ當テ同徒ヤ^{マカウ}マッ
カルハイル^ロナル者モ其說聞テ送ル^{マカウ}アリ
梅ニ歟者千六百十七年我元和三年^丁其書ニ
已暇夷地ニ至ル者ナリ後ニ見ヘタリ

云或時長官「フランソイスバスセコ」按ニ瑪港
徒ノ長タル
者ナルベシ予ニ書ヲ以テ命シテ曰「自註ニ曰
崎ニアル改羅巴本國ノ貴官按ニ波
爾杜瓦
爾時ナリ」國ノ貴族ヲ云ナ
シベ頻ニ野作ノ風土ヲ熟知センコトヲ欲シ給
ラ因テ汝コレヲ詳ニシテ申報セヨトコレニ
依テ予去年其地ヲ長崎ヲ登シ再ヒ「マエ」自註
ニ曰野作ノ
城地ナリニ到ル是即其地方ヲ精密ニ點檢
シテ其命ニ應シ且既ニ布キ施セルキリス
ト契利斯督

ノ教法ヲ尚亦盛ニセントシテナリ其地ニ到
ルヤ幸ニノ其処ニ居住スル日本人及日本語
ニ通シタル野作人ニ就テ其地方ニ係ルノ諸
事皆精詳ニ聞クコトヲ得タリ

予昔ヨリ當今ニ至ル迄野作ハ鳴ニアラス韃
韃ノ一端地ニシテ新伊イハ
ス斯把泥ハ
ヤ亞ノ陵出セル
キヒラ按ニ北
亞墨利
加洲
トイ
ヘル
地ト
對
処
シ「アンマン」海門ノ按ニ北
亞墨利
加洲ノ
海西ノ
舊稱ナリ

以テ相隔ツト思ヒタリ何レトナレハ嘗テ野
作人実證ヲ告テ曰柘前ヨリ陸地東方ニ至ル
絶界ノ海ニ臨ム^{「」}が^{「」}ケ^{「」}梅ニ^{「」}ヒ^{「」}ロ^{「」}トイヘル迄
ハ凡八十日路アリヌコレヨリ陸地西方海ニ
臨ム^{「」}ニキ^{「」}レ^{「」}誤ナランカ^{「」}トイヘル処ニ至ル
ニハ六十日路アリト是ヲ以テ予既ニ考フル
ニハ野作ハ嘗ニアラス韃靼ノ東方ニ陵出セ
ル地ナルベク其南北ノ長サハ五箇月路モア

ルベシト思ヒタリキコレ世ニ古ヨリ今ニ於
テモ斯ノ如キ大嘗アルヲ聞カサレハ此土
正シク大地ニ連属スルノ地ト推察シタルナ
リ然ルニ予再ヒコレヲ探リ索メ熟考シ今ニ
至テ正シク海國ナルヲ得タリ即其證トス
ルモノハ

第一野作ノ東方及南方ノ地ハ海ニ濱シ其西
方ナル^{「」}テス^{「」}ソイ^{「」}梅ニ^{「」}テシ^{「」}ノ地ハ海水環テ其

對向スルノ地ト相隔ツルナリ其地ノ如キ未
タ嘗テ野作人ニ於ケルモ審ニセス何トナシ
ハ其是ヲ相隔ツルノ海ハ水勢激烈ニシテ渡
ルベカラス且其水中ニハ大蘆影シク生シ流
水毎子ニコレニ抵觸激當ス其海ノ水勢如斯
ナルニ因テ野作ノ小舟ノ如キハ固ヨリ渡ス
可カラサレバナリ

若し且コノ東方及西方「テスソイ」ノ流水其東

西共ニ大海ニ通スルモノニアラズンハ豈如
此急流スル「アラシマ」乃其水勢ノ急ナルヲ
以テ察スレハ野作ノ北地ハ海水相環テ嶋ト
ナル「ハ必然」ノ理ナリ

按ニ此説極テ是當時ニシテ能ク分明ヲ得
タリ

予ニ野作ハ未タ嘗テ他ニ從屬セスコレ固ヨ
リ独立スルノ国ナレハナリ若レコレ韃靼ト

接壤ノ地ナレバ敢テ独立スルヲ能ハス必ス
韃靼王「ゴロ」テカン^{接ニ「ゴロ」テハ大ナリ}
康熙帝ノ^{カシハ汗ナリ清ノ太祖}
「ナラン」是ヲ併スベシ然レモ野作人ノ他国
ノ人ニ降ラス且其長タルトイフ者ハ僅ニ僕
從三四人ヲ給仕スルノミニテ別ニ一國ノ總
督タルモノナキトイヘ氏確乎トシテ他ニ從
屬スルヲノナケレバ愈々野作ハ他國ト界ヲ
接ヒス全クコレ寫ナルヲ知ルニ足レリ且

野作人他國ト深ク交リテ廣ク市易ヲナス
ナキヲ見レハ予益々顯然タル一寫ナルヲ
極ムルヲ得ルナリ

野作ノ北韃靼トノ間ナル一條ノ海ハ常ニ具水
ノ漲ルヲ多キカ故ニ極テ急流ヲナス時々府
城柘前ニ來ル野作ノ東西ニ方ニ住ムモノハ
却テ精シク是レヲ知ラス蓋土人ノ性質粗暴
形體ハ尋常ノ人ヨリハ大ニシテ肌膚淡黑色

谷長鬚ヲ垂ル其尤モ長キモノハ胸ニ至ル頭
髮ハ日本人ノ如クニ前半部及ヒ顙顚ノ前角
ヲ剃リ後口ハ長ク後背ニ垂ル梅ニ是
所未聞又各身
垂ニ小孔ヲ穿テコレニ銀環ヲ懸ク若シ貧民
ニシテコレナキモノハ長キ絹片ヲ以テコレ
ニ穿ツ是レ男女一統通常ノ風習ナリ

老若男女皆酒ヲ愛ス就中松前ニ來ル者ハ其
最モ嗜ムト甚シキ者ナリ飯ニハト、ヌノ梅

海獺ノ油ヲ交ヘ食フ但酒氣ノ循環ヲ止ムル
ナリトテ酒ヲ飲ムノ前後ニハ必ス食セス虜
ニ爛醉ニテ街路ヲ間走逍遙シテ行者アリ然
レニ誤テ顙仆シ其體ヲ傷損スルモノナシト
見ユ

長者ノ衣服ハ凡俗ノモノヨリハ長ク絹片ヲ
以テ大小ノ十字形ヲ縫ヒ成シタリ其製絹或
ハ綿布ヲ以テス貧賤ナル者ハ獸魚ノ皮革或

鹿太ナル綿布ヲ用フ予彼ニ向ヒテ問フ如何
カナル故ニ因リテ其衣服皆十字形ヲ附タル
ヤト其答ニ曰コレ吾カ壯健ヲ嘉ニスルノ章
トストイヘリ尤往古ヨリ他様ヲ用ヒス唯コ
ノ十字形ヲノミ尊ミ用ユ其所以ハ別ニ其美
ヲランナレト彼等更ニ以コトヲ知ラスシテ
唯右ノ如クニ答ルナリ

按ニ此條可解不可解

武器ハ弓矢鉞ノ類ヲ用ユ其鉞ノ長サハ都
テ皆大約日本ノ短刀ニ等シ兎ハ片板ヲ以テ
綿布ヲ挟ミ製シタルモノナリコレヲ着タル
形ハ甚異状ニシテ一突ニ堪ヘサルガ如シ又
一種ノ毒矢ヲ用ユ若シ此矢ニ中ル者アレバ
其麻痺ルヲナシ性質常ニ戦争ヲ嗜ム然レモ
同美相争テ殺スヲハナシ
許多ノ鵜鶴鷹ハリーニング
按ニコレ鰐鰐ニシテ
然レモ此地青魚ヲ

多ク漁ス其形ノ相似タルヲ以テ青魚シロコヲト見誤リシモノト見誤ルノモノナリ故ニ以下ハア及他
枯魚等ヲ松前ニ賣シ来テ交易ヲナス其地亦
鯨魚ノ鬚アルナリ既ニ所謂其トビヌノ海ノ
皮ヲ見ルニ粗毛有テ豕皮ニ似テ長サ四尺餘
其價コノ地ニ於テハ最モ卑シ
商買ニ金銀ヲ用ヒズ皆米穀綿布綿糸衣履等
ノモノヲ以テ交易ヲナス

松前ノ君長梅ニ松前侯予ニ言テ曰「ラツコン」
梅ニ海狸ヲト云ヘル魚皮ハ野作ノ迹傷ナル
三鴛ニ往テ買ヒ求ムルモノナリ梅ニ「ウルッア」
トモノナリ
カノ其鴛ノ土人ハ皆髭ナリシテ言語亦野作
ト異ニシテ性質甚愚昧ナリ乃野作ノ地ハ已
レカ住ム処ヨリ何レノ方向ニ當テ在ルヤ更
ニコレヲ辨別セスト梅ニ此本説未タ能
ク考フルヲ得ス
死后来セアルヲ知ラズ唯日月ヲ尊敬スルノ

こ但山神水神ヲ祭ルコレ山林ニ入テハ禽獸
ノ獵多ク且柴薪ニ乏シカラサランヲヲ願ヒ
河海ニ莅テハ魚獵ノ多カラシヲ祈ルトナ
リ

寺院及教化ノ僧ナク亦別ニ相集テ康福ヲ祈
ルトココモナシ固ヨリ文筆更ニナシ
各ニ婦ヲ娶ル又唯一婦ノミナルモアリ亦支
那人ノ如ク教多妻ヲ使フモノアリ夫ト死ス

レハ其妻タルモノハ其舅又ハ其夫ノ朋友ノ
方ニ往キ同居シテ生涯再嫁スルトナシ
其妻トナリタルモノ他ニ其淫ヲ犯セハ頭髮
ヲ剃リ尼トナスコレヲ以テ其犯セル罪アル
ヲヲ人ニ知レ易カラシムルノ戒トス又奸夫
若シ彼婦ノ夫或ハ其夫ノ朋友等ニ途中ニメ
行キ逢ヘハ己シカ身ニ帶ルトコロノ劔及其
他ノモノモ悉ク彼ニ奪ヒ取ラル、ナリ

按ニ今聞クトコロ猶然リ

又「エスウサツト」那蘇ナル者右ニ出ス書ト同時ニ

羅甸語ヲ以テ書シテ日本ヨリ送りタルアリ曰

「エスウサツト」ノ野作ニ遍歴スルヲ既ニ三度ニ

及フ日本ノ北邊野作トノ界ハ一海峡ヲ以テ

コレヲ隔ツ然モ其水甚急流スルナリト

按ニ是レ短文トイヘ取テ以テ爰ニ附説

スルモノハ日本ト蝦夷トハ自ラ相離レテ

接壤タラサルノ證ヲ明サシカタメト見ユ
ルナリ

○教法ノコトニヨリテ千六百二十四年寛永元年中

日本ニ事ノ起ルアリ其始未ヲ記シタルモノヲ

見ルニ其事ノ発端ト云ハ即チローマ羅馬ノ僧官柘前

ニ於テ教法ヲ説クヨリシテ起ルナリト其時ニ

一ノ僧「マ」マ「マ」ナル者アリトイヘリ意フニ其

「マ」マ「マ」ト云ハ即チ千六百十七年日本元和三年丁巳ニ野

作ニ渡ル ホルトガル 波爾杜瓦ルノ僧官「マ」コッブカルハイ
ルロノコトナルベシ既ニコノ者ノ野作ニ渡ル
「ハ西度ナリ

按ニ「ロ」コッブ、カルハイルロト云モノハ既ニ
千六百二十年我元和六年庚申日本ニ於テ尋
問ノ記事ヲ媽港ノ同役ニ送ルモノナリ斯ニ
見ヘタリ但シ其野作ニ至ルコト西度云云ナ
ルノ説ト説法ヨリノ日本ニ事起リシヲ寛永

元年ニアリレトイフノ義未タ詳ナラス

○右ニ出ス「ア」ンゲリス^人ナル者ノ書中ニ於テ最
モ所要考證トスベキモノハ即野作ノ西海中ニ
大蘆アルノ説ナリ何トナレハ ア細^ア亜ノ東方韃
韃ノ沿海ニ蘆ノ生スルトイフハ既ニ久シク聞
ク所ニシテ其説ト符合スレバナリ

○今時世ニ「フ」リイス、スタラート エトロフト「ク」ナ
「ト」啼フモノハ往古嘗テ「ア」ニヤン^レ海峡ト名ク

ルモノナルベシ但コノ「アニマン」海峡ト云ハ當
ニコノ邊ニアル「アニマ」又「ニワ」ト自称スル地
名ヨリ起テ其名ヲ得ルナルベシ即「アニマ」又「ア
ニワ」ト「アニマン」トハ別シク音ヲ異ニスルモノ
ナレハコノ「アニマン」ト云ハ全ク「アニマ」又「ア
ニ」ト訛音ナルベシ

按ニ原本ノ首ノニ出シタル図ヲ見ルニ「アリ
イス」海門ト云ハ「エトロフ」ト「グナレリ」トノ海

峽ヲ私名シタルナリ又萬國輿地圖ヲ見ルニ
「アニワ」ハ一名「マリ」唐太ノ「トマリ」ト呼テ唐
太ノ最東徒出セルトコロヲ云フ然レハ右ニ
イヘル説ハ必ス推察臆度ナリ

○又右ノ書中ニ六七月ノ頃按ニ我芒種ヨリ大暑ノ間ニ当ル其海

上常ニ霧甚深シト云ノ説アリ即我和蘭ノ海船
至ル寸モ亦既ニ然リトイヘリ即韃靼海及新增ビム
蠟フ海按ニ魯西亜ノ北ナル一大嶋ノ近傍ノ如キハ皆其時候常

ニ謂気豫ミトシテ遠キヲ望ムヲ能ワス故ニ海
船亦進退スヘカラサルナリ

千六百四十三年

日本寛永ニ
十年癸未

ヒリッピスマアコ
ポ

フテ、バツケルトイヘル

影長

按針
彼

韃靼訪知ノタノ

トシテ「カステ

サリキユム

ト號スル

海船ニ駕テ其地

方ニ至リ而ノ後其聞見ヲ記録スルモノアリ

按ニ互ニ出スモノハ前條件ニ載スル所ナ

リ但其船中ノ一夥長別ニ自カラ其見聞ヲ

記スルモノナリ故ニ既ニ已ニ出ス諸説ト

一様ニシテ前記ト同見同聞ヲ記シタル

甚多シ而シテ彼ト坎ト互ニ相答スルナ

キニアラス故ニ重複ヲ厭ワストイフモノ

ナルヘシ

船ヲ日本ノ東方ニ進メ漸ク野作ノ近海ニ至

レハ許多ノ鯨魚北海ヨリ南行スルアリ「ギシ

マ」一名「シ、マ

梅ニ以上共ニ地名不詳「クナシ
ヒリ」近傍ノ大小諸島ヲイフカ或

又千島ノ轉半野作東方諸島ヲエリノ邊ニ於
ノ千シマト古來稱スレハナリ
テモ亦然リ水客等日本ノ東北ノ海中ニ於テ
大口魚鮫及其他ノ魚類夥シクコレヲ獵ス
野作ヨリ南ニアタリ日本極北ノ地ニ向テ銳
出シタル所ハ北極出地四十一度二十四分十
リ按ニ南部ノ北界遠九度ニナル野作ノ諸山六月按ニ我小
至ノ間ニナル中高積雪アリ北極出地四十二度四十
五分ノ處按ニエリモ岬ニテ海岸ヨリ九半里

許洋中ニテ一小舟ヲ見タリ其舟中ニ二男一
 童子アリ其形貌都テ矮小綿服ヲ着シテ髪髻
 ハ共ニ粗荒ナリ弓矢ヲ携ヘ銀片ヲ以テ飾リ
 タル一カヲ帶ス其持タル小カノ柄ヲ見ルニ
 コレ亦銀ヲ鑄メ彼レカ耳皆銀環ヲ懸ケ以テ
 飾レリ既ニ「イーラフ」ノ按ニ「エウカライ」カ
 按ニ「トカ」シ「イラルカ」ラヌカ「クチラレ」リス
 按ニ「ヲホツナイ」ヲユカ前卷ニ
 「ウツ」イラハ「ヲウツ」イラニ作りタリ

等ノ諸部ニ至レハ其土人等曰ク銀ヲ出ス山
アリテ專ラコレヲ掘ルト

北極出地四十三度零八分ノ處ニ於テ野作ノ
一隅ヲ見ル其地方高ク平坦ニシテ樹木アル
ヲ見タリ我々ノ人爰ヲ「モンズボ」フトト名
ク按ニ人頭ノ義ナリコレ彼カ私称即
「アツケ」ノ東ニアル岬ヲ云フナリ岬ノ
南方ヨリ大凡半里許リ海中ニ陸出シタル砂
漠アリ又北極出地四十三度二十四分ノ處

ニ於テ詩多ノ小鳥ヲ見タリ 按ニ「シコタン」邊
ノ數小鳥ヲ云

其形各相似タルヲ以テ總テ「ビスカト」ラレス

ト名ク 按ニ角國傳信記事ニ曰「ビスカト」ラレ

義ト云コレハ支那東京ノ港中ニ在ル 數小鳥攢聚シタルノ總稱ナリト此處ニ於

テ土人小舟三艘ニ駕テ我船中ニ来ルアリコ

レ皆其耳垂ニ銀環ヲ懸ク大ナル水獺皮二枚

ヲ携ヘ来ル彼等ハ更ニ銀ヲ以テ貴重ナルモ

ノトシ且好欲スルノ狀ナレ此邊毎日霧深ク

呬

山

ラント思ワル、ナリ

此地山^ノ麓^ニ夥シク生レタリコレ当ニ其土地金

銀^ノ鑛アルト云ノ證ナリ^{梅ニ金銀鑛ノアル地}

ノ説未タ嘗テ西書ニ^{見ス退テ考フヘシ}茲ニ水夫ヲ遣シテ野菜

蕪酸^ノ模^ヲ採ラレメントス因テ水夫等上

陸ニ是処彼処ヲ見シニ一柱ニ鈕ノ掛ケタル

ト又一小家ノ中ニ人ノ骸骨アルヲ見出セリ

其鈕亦銀ヲ以テ飾リ柄ノ所銅片ヲ以テ巻キ

テ恰モ野作人ノ用ユルモノニ似タリト云

此処ニ於テ更ニ佳人ヲ見ズ然レハ右ニ云フ

骸骨及其鈕ハ他方ヨリコ、ニ来ルモノヨリ

スルカ其實尋知ルベカラス意フニ日本人モ

コノ邊危難ノ海路アルカ故ニ「モンズホラフ

ト^{梅ニ既ニ云「アツケレ}ノ東^{「シヤク}岬^{ヲ云}ヨリ遠クハ往ク「ナ

カラ^ンカ疑フヲクハ是レ元ト野作人ノ「スタ

アラ^ンエイラント^{「クナニ至リソレヨ}シ^{レテ}

又此¹コムハケニースラント²ロフト³ニ渡入⁴遂ニ
コノ小家中ニ於テ死スルモノカ或又嘗テ聞
カガルトコロトイヘ我未タ此地方ニ至テ
ガル以前ニ改罗巴列中ノ某及ノ人カ若シク
ハ我和蘭人来リコ、ニ於テ死スルモノカ又
ハ海船中ニテ死セシヲ此処ニ残シ置キタル
者カ又其コ、ニ斯ノ劔ヲ懸ケ置キタルハ其
所以有テ其人等残セルモノナルニマ未タ辨

スベカラサル所ナリ此処ヨリ白色ノ砂石混
交シタル土ヲ取テ歸ル此上ヲ水ニ洗ヒ見レ
ハ針ノ如キモノヲ出ス是所謂此地ノ銀ナ
ルベシ

此邊ノ海水ハ南或北ヨリ流ル最モ此ヨリ流
ル、ナ多シ

此地ニ在ルモノハ禽獸ヒテハ唯狐熊鳥雉ノ

ミナリ

爰ハ和蘭都府「アムステルダム」ノ記章^ハノ記章^ハヲ彫刻シタル標榜ヲ建テ即亦コ、ヲモ和蘭ノ東印度商館ノ一トセントス因テ大小ノ銃炮秋門ヲ布放チ以テ大ニコレヲ祝賀シタリコレヨリシテ後此地ヲ我カ西方ニ於テ「コムバグニース」ラントトハ云フナリ

按ニ「コムバグニース」ハ商館互市場ノ義ナリ東方印度商館ノ一トイヘルハ印度ノ跋^バ

太^タ亞^ア斯^ス亞^ア其^キ第^{ダイ}一^{イチ}タレバナリ「ラント」ハ国ノ義ナリ即「エトロフ」ヲ西洋ニ於テ斯リ称スルハコレヨリ始ム前條件々コノ名アルモノハ我所謂「エトロフ」ニシテ彼ハ百有餘年前ニシテ此地ヲ開啓セリ其建タル標榜ト云ハ次卷ニ載セタル「エトロフ」圖中ニ角ノ符アルモノコレナリ

頁由 熟^{じく}此^こ二船ノ事本編前後教條並ニ他書

他該載スル所ヲ以テ併セ考フルニ彼國嘗
テ日本ノ北ニアタリ韃靼ノ海濱ニカタ
イ^乗トイフ一州アリ其奥中ホリサシケ^{トイ}トイ
ヘル大河アリ其海ニ注リノ所ニ要港アリ
此處ニ於テ支那人專ラ交易ヲナスト聞傳
フルヲ久ク我寛永二十年ニアタリテ^{ハタ}跋太
^{アビヤ}亜^{アビヤ}ノ總督某二人ノ船師^{ハシ}ハシ^テサリキコ
ル子^リリス^{マール}テン^{カル}リツト^テフリイ

ストイフ者ニ命シ二艘ノ船ヲ裝載シテ同
處ヲ開帆シ我遠洋ヲ行海ノ遂ニ東蝦夷地
ヲ廻リ漸ク其東邊ニ至リ^{クナシリ}エトロ
フノ二島ヲ得タリ其ニ上陸シテコレヲ按
檢スルニ無人ノ島ナリ未タ其到ニト欲ス
ル所ニ至ラスノ先コノ二島ヲ得不日ニ其
欲スル所ヲ点檢シ後愈々其地ニ交易ノ業
ヲ開クノ片ハ其手途タルコノ無人島ヲ以

テ開創シ土宇ヲ營シ人衆ヲ送り其互市ノ
會館ヲ造建セントシコノエトロフ島ヲ新
ニ名^{コン}テ^{ハク}エ^子巴^ス古^ス業^ス斯^ス島^ストノ大ニ歡喜セリコ
レ印度^{ハタ}跋^ア太^ビ亞^マ斯^マ亞^マノ互市場ニ加フルノ一
商館トセントスルノ意ナリ故ニ本國會盟
ノ記號ヲ刻ノ標榜ヲ建ツ其一島ハ「スノア
テニエイラント^{グナ}レ^リ」ト名クコレ亦其事務
ヲ總理スルノ一場トナサントスルノ名義

ナリト見ヘタリ且其二島相隔ルノ海峡ハ
即船師ノ名ヲ取り「フリーズ峡」ト名ク然ル
ニ其事未タ時至ラスレテ僅ニ「カラフト」ノ
一端ニ至ルノミニシテ其国命ヲ受テ專ラ
欲スル所ノ難地ニハ達スルヲ能ハスノ空
ニク帰航シ其事ヲ果サストキユエルナリ
此海行ノ便通幸ニ蝦夷ノ大畧ヲ概見概聞
ノ同駕ノ諸士各紀行紀事ヲ爲セリコレ我

ノ却テ此奥地ヲ辨セサル時ノフナリ、
其舊来聞傳フル所ノ[「]ポリサシケレハ所在並
ニ其河名ノ考説皆共ニ実ヲ究メス臆察推
了ノ事トモト知ラル從來屢曾テ其地ノ略
ヲ開ク[「]アリトイヘモ往テ実検スルニハ
如カストテ兩船ヲ奄スルノ一挙起リレ[「]
ト見ユ今ヲ以テ考フルニコレ[「]アムル[「]里[「]江[「]
河[「]口[「]ノ[「]ナ[「]ル[「]ベ[「]ク[「]メ[「]久[「]ク[「]カ[「]ラ[「]フ[「]ト[「]人[「]ト[「]滿

洲人等交易ノ[「]ア[「]リ[「]レ[「]ト又近時爰ニ魯西
亞人船ヲ往來スル[「]ア[「]ル[「]ヲモ遙ニ傳聞ノ
吾亦[「]跋[「]太[「]亞[「]斯[「]亞[「]ヨリ廻船ノ支那北邊ノ人
ト新ニ交易ノ業ヲ開ニト企テタル[「]ト思
ワ[「]ル[「]宜[「]ク[「]此事ニ係ル毎條ヲ讀マハ其他ノ
所在其趣意モ互ニ参考ノ辨識スベシ

北極出地四十四度五十分ノ処ニ於テ野作ノ
一高山我私ニ名ケテ[「]ビ[「]イ[「]キ[「]ア[「]ン[「]ト[「]ラ[「]ニ[「]イ[「]ニ[「]接

ウナベツトイヘルヲ望ム其下ヨリ山頂ニ至
山ヲネリトイヘルヲ望ム其下ヨリ山頂ニ至
ル近山ヲ繞テ通路アリ恰モ高臺ニ設クアル
モノ、加シコレ甚高山ナルニ因テ遠ク海上
ヨリ眺望スベキナリ

岨山ノ北ノ地ニハ樹木夥シ且瀑布飛泉ノ海
中ニ落ルアリテ一美觀タリ

北極出地四十四度四十二分ノ処ニ上陸セシ
ニ梅ニ「シヤリ」ニア
ツシリ邊ナリ
土人大ニ饗應セリ而シテ

ベイルボット比日魚及鯨油ヲ以テ米穀ト交

易ス此地酸模及其他ノ菜草多シ我輩コノ海

ニ於テヘイルボットヤケニシタ松魚青魚大口魚ヲ獵ス

又牡蠣ヲ採ル此土人ハ毎歲數多鯨魚ヲ獵ス

此邊ノ住民甚和藹人ニ親交セリ其婦人ヲ見

ルニ姿貌自カラ尊大ナルヲ甚シ惣身衣ヲ覆

フ此地ノ美服トスルモノハ獺皮ヲ以テ製シ

タルナリ皆大ニ交易ヲ好ム既ニ一斧ヲ與フ

ルニコレニ獺皮一枚ヲ以テ贖フタリ、

所謂^イイキアントヲニイ^ワナベト云高山ノ

北ナル海濱ニ於テ男女童子十余人ヲ見ル其

処ニハ唯^{モミ}樅^デレノ子^{前ニ具注セリ}一種^ルキ^梅

赤楊^ハハ^リン^キキ^及エイペンボーム^{按ニイヌガ}

有^一無^未開^地ノアルノミ是レ多クハ檣及帆架ヲ

造ルヲ用テ可ナラン

此邊ノ地ニ海水ノ遠ク國中ニ流レ入テ河ノ

如クナルモノアリ^{按ニ吹卷ニ出ス「エトロフ}

ノ此^美同船ノ士ニ野作及^ニ孔^ハ孤業思^{「エト}

ヲ猶尚精細ニ開啓^{「エ}スル者アリ然

レ[「]我輩既ニ命令ヲ蒙リタル其本意アレバ

即[「]此処ヨリ北方ニ船ヲ進メテ遠ク韃靼ノ沿

海ヲ訪知[「]ニ[「]ヲ謀ル

北極出地四十五度三十分ノ処ニ於テ高岸ヨ

リ瀑布ノ落ルヲ望ムコノ瀑布ノ後ナルノ地

亦高クノ且遠ク其國中ニ突出セル峻山見ヘ
タリ即此地ヲ「フラス」ケンボクトト按ニ唐太ノ「コ」
カト名ケタリ夜陰此処ニ火光夥ク登スルヲ
望メリ

北極出地四十六度ノ處ニ至リ船ヲ其地方ニ

寄ス按ニ唐太ノ「ウエ」コタ此処ニ於テ敷多ノ

小船生乾ノ松魚サケヲ積ミ未テ米穀故綿布ト文

易セン「フ」ヲ請フ彼等銀巧鍊ヲ施セル劔ヲ佩

キンカナモノ

ヒ耳ニハ銀鑲ヲ懸ケタリ且其舟中ニ一婦人

ヲ見ル其頰ニ緑色ノ珊瑚ヲ鑲ニシテ兩端ニ

モ亦銀ノ小鑲ヲ穿ケタルモノヲ懸ケタリコ

ノ珊瑚珠ノ環ハ日本ヨリ致スモノカ又ハ韃

韃ヨリ出ルカ共ニ漸ク數人ノ手ヲ經テ得ル

モノナラン按ニ毎條珊瑚珠トイヘルハ他物

珊瑚珠ヲ用ルト見失ルモノカ未タ蝦夷地ニテ

一個ノ老盲者ヲ伴ヒ船中ニ来ル彼等此盲者

ヲ大ニ尊敬スル様ニ見ユ此盲者我船ヲ退カ
ントスル片水夫等ニ向テ暫ク物語レルヲア
リ其意固ヨリ解セス遂ニ彼等其盲者ヲ舟中
ニ伴ヒ陸地ニ漕寄ス翌日ニ至テ又其盲者ヲ
伴ヒ来レリ其時着スル絹服ノ背上ニハ識號
アリタルナリコレヲ伴ヒ来ルノ徒我水夫ニ
許多ノ松魚ヲ贈リテ厚ク親ノリ水夫ノ中凡
ソ五寸許ノ一錢條ヲ以テ松魚四尾ト交易ヲ

ナセリ又伊^イ斯^ス把^バ泥^ニ垂^チ製^{セイ}ノ^ノレ^レヤ^ヤール^{ール}ト名ケル
銀錢ヲ以テ松魚ト交易セント乞フニ彼等コ
レヲ辭シ且固ク欲ヒサルノ狀ヲナス又彼シ
ニ別ニ銀ヲ與フレバ笑テコレヲ取ラズ因テ
又鉄ヲ出シ与ヘシニ直ニコレヲ得テ喜テ懷
ニス是レヲ以テ察スレバ此地方總テ鉄ノ産
ナキヲ知ラル
ギルギセン^ル 按ニ止^止白^白里^里亞^亞
中ナル地名ニ於テハ盲僧ノ教

主アリ或人曰韃靼ノ中ニテ教法ヲ崇信スル者
自カラ盲目者トナルト然レハ石ノ盲者ハ若シ
クハ韃靼ヨリ来ルモノナランカ

此地絹布最モ乏キト見ヘテ大ニ是レヲ求ム
即銀及皮革等ヲ以テ交易セント請フ

彼又許多ノ大口魚ヲ船中ニ負シ来ルリ又此
内海ハ夥シク松魚ヲ獵スル

北極出地四十六度二十八分ノ度ヲ得ル海岸

ノ近傍

梅ニ唐太ノノヤイバツレ又
マトマナノ邊ナラン

ニ漂フタル間

ニ救艘ノ小舟皮革鯨油及魚羹ヲ積テ我カ船

ニ寄ヒ来レリ其人亦盡ク銀環ヲ耳ニ懸ケタ

リ

北極出地四十八度五十分ノ度ヲ得ル処ニ至

レハ 梅ニ唐太ノノヤイバツレ又
タライカレノ北邊 又其地ノ一貴人從者

六人ヲ伴ヒ皮及鳥羽ヲ夥シク我船中ニ携カヘ

来リテ大ニ我等ヲ尊敬セリ因テ彼徒ヲ招ク

饗食忘スルニ其食ニ臨テ帝ニ契^キ利^リ斯^ス督^トソ法徒
ノナセルカ如ク合掌シコレヲ并シテ後ニ食
ス思フニコレ嘗テ^{ローマ}羅瑪ノ教僧日本ニ来リ其
便ヲ以テ人爰ニモ来テ宗法ヲ傳ヘシニ依ル
カ又ハ韃靼ノ中「アムル」^{黒龍江}ノ邊ニハ魯西亞
人ノ居住スルモノアレハ彼ヨリシテ漸ク其
法ヲ傳ヘタルカ或舊傳ノ尚今ニ於テ行ワル
モノナランカ

此邊ノ海濱予七月

<sup>按ニ我夏至ヨリ
大暑ノ間ニ当ル</sup>

ノ未ニ於

ケルモ尙積雪アリ

此海濱ニ於テ一空屋

アルヲ見タリ凡テ此邊

鳥類及「セーロ」^{フベン}

<sup>梅ニ海獺
ヲ云カ</sup>ノ類多シ

船中ノ水夫等甚疲勞シタルニ因テ尋訪此ニ

止テ北行スルヲ廢テ遂ニ船ヲ野作地ノ近

キ海上ニ進メ亦「フリイス」^{海峡}ノ間

ヲ通航セリ凡テ此邊ノ海上ノ風候ニテハ常

ニ北行スルヨリハ南行スルヲ甚速ナリ

按ニ此邊ノ潮流凡ソ恒ニ北ヨリ南ニ流ル
レバナリ即前ニ云ヘルカ如シ

北極出地四十二度四十五分ヲ得ル野作ノ南

方ノ地按ニ「エリモレ」嶋ニ至レバ土人許多ノ菓

実魚羹牡蠣ヲ船中ニ賣シ来ル其人物亦再ニ
銀環ヲ懸ケタリ

此處ニ絶テナキ所ノモノハ鴈、鶉、鳧、鵝、羊、及カ

ルクリーン

所謂「カラクシ」レ
鳥コレナリノ類ナリ

此處甚草深クシテ最モ歩行ニ不便ナリ其曠

野ニハ桑、葡萄、蔓、苺子アチクダケ、山胡桃クルミ、紅白覆盆子コロ

イスベレイ按ニ木ヒヨドリジョウゴヲ云ハマナス
此等未タ夷地有無ヲ聞カズ玫瑰

花ノ類ナリ

此邊ノ海水亦潮汐アレ氏但常ニ其例等シカ

ラス

日本ニハ金銀銅ノ産國ヨリ多シトイベ氏尚

此地ヨリ多ク日本国王ニ銀ヲ貢スルト見ユ
凡テ日本ノ地樹木ノ生ヅサル処ハ必ス金銀
銅鉄其土中ニ有ルベシ未タ開鑿セサル金銀
銅山処々ニ多シ国王必ス其処ニハ塚ヲ築キ
濫シ人ヲ置テ掘入ヲ所リ

日本人煙草斧鋏及其他雜物ヲ爰ニ賣シ來テ
皮革鯨油鯨肉ト交易ヲナス我等此地ニ於テ
更ニ野獸ヲ見ストイハレ「エランツ」
鹿ノ一美
前ニ註ス

土人等蓆席或杯椀ノ漆器及鋏等ヲ船ニ持來
テ我首長ニ贈ル首長モ亦若ク品ヲ以テコレ
ニ報謝ス其賣ル所ノ品物及彼レカ着服皆土
地ノ製トハ見ヘス俱ニ他國ヨリ獲ルモノナ
ルベシ

此地ニ碇泊シタル中ニ未タ見サル形狀ノ舟
我カ船ニ漕キ寄スルアリ其駕シキタル人物
皆美服ヲ着シ他ノ此地方ノモノト大ニ勝レ

リ其再ニハ亦銀環ヲ懸ケ腰ニ一カヲ帶セリ
其舟中ニハ皮革枯魚ヲ積ミタリ其者皆「ク」
レ按ニ「ク」スニ住居スル者ナリト云

按スルニコノ按針役ノ紀事尤モ精詳ヲ致
セリ

○嘗テ朝鮮ニ囚ワレタル和蘭人紀行中ニ曰朝鮮
ノ沿海ハ潮路南北ニ急流スコレ韃靼ノ沿海ヨ
リ一直通ニ朝鮮ノ方ニ流ルハモノナリト若シ

実ニ然ルモノナルハ是レヲ以テモ亦既ニ「ア
ニゲリス」人ノ記セルカ如ク野作ノ海国ナルコ
ト疑ヒナカルベシ

按ニ朝鮮ノ囚レトナリタル説次卷ニ見ユ他
書亦其詳説アリ

○日本人ハ野作人ヲ使役スル常ニ戲弄ノ甚ク暴
虐ナリ野作地ニ置リ所ノ日本将令ハ「エン」ガル
津及「ヘ」ラサキ前邊ニ至ルモ亦コレヲ併ビ治ム

按^ニ諸日本人ハ都テ寺院ト茅宅ノ室中ニ甚美
ヲ飾ルナリ又埃國自製ノ輿地圖ヲ觀ルニ亞細
亞^ヤ列ノ中北高海ノ邊ヨリ起テ日本野作迄ヲ畫
キタリ又世界全圖ヲモ見タリ兵ニ謬妄不可取
モノナリ

○長崎ノ東方ニ當リ樹木繁茂スル無人島アリ七
年以前ニ始メテコレヲ見出セリトナリ按ニ其
說未詳
○野作地ヲ遍歴シタル日本人ノ話ニ曰野作ノ北

地ハ總ヲ支那製ノ服ヲ着ス斯ノ如キノ服ハ固
ヨリ日本ヨリ送りタルトナレトイヘリコレヲ
以テ考フレハ其邊ノ土人ハ支那^ニウヤ^カ韃靼
及^ユゴ^ビ東北ニ在ル地名ノ人ト親ク交リ且互布
ノモナスト見ユルナリ

○日本ニ置ク所ノ和蘭ノ商館ニ在テ甲必丹ノ職
ヲ以テ多年其地ニ在リシ者予ニ語テ曰野作地
ヨリ枯魚塩藏魚鮫及其他ノ雜物等夥シクコレ

ヲ日本ニ齎シ来ルアリ國中專ラコレヲ用ユ意
フニコレ當ニ我國ニテ諾ル勿入亞及エストテ
ント按ニ北野墨利加洲ノ中ニ在ノ産ヲ入レテ
國用ニ加フルカ如キモノナルベレ其是ヲ持来
ルモノヲ見ルニ都テ其半身ハ衣ヲ覆フス猶裸
程ノ如シ其膚最モ粗荒ナリト
按ニ此説最モ不審

野作雜記譯說卷之三終

